

ToSTNeT

機関化の進展、投資手法の多様化、グローバルな競争の激化など、近年のわが国証券市場の大きな環境変化の中で、私ども東京証券取引所は、投資家の多様な取引ニーズをシステム・サポートします。

取引の種類は、単一銘柄取引、バスケット取引を対象とした ToSTNeT-1 と、終値取引を対象とした ToSTNeT-2 の 2 種類があります。

取引時間は、通常のオークション市場の立会時間外となります。

ユーザー・オリエンテッドなシステム・コンセプトの下、システム間接続方式と端末接続方式の 2 種類を利用することができます。また、証券会社を介して、投資家がオンラインで取引を行うこともできます。

1998 年 6 月 29 日(月)より ToSTNeT-1 を、同年 8 月 7 日(金)より ToSTNeT-2 をスタートしています。

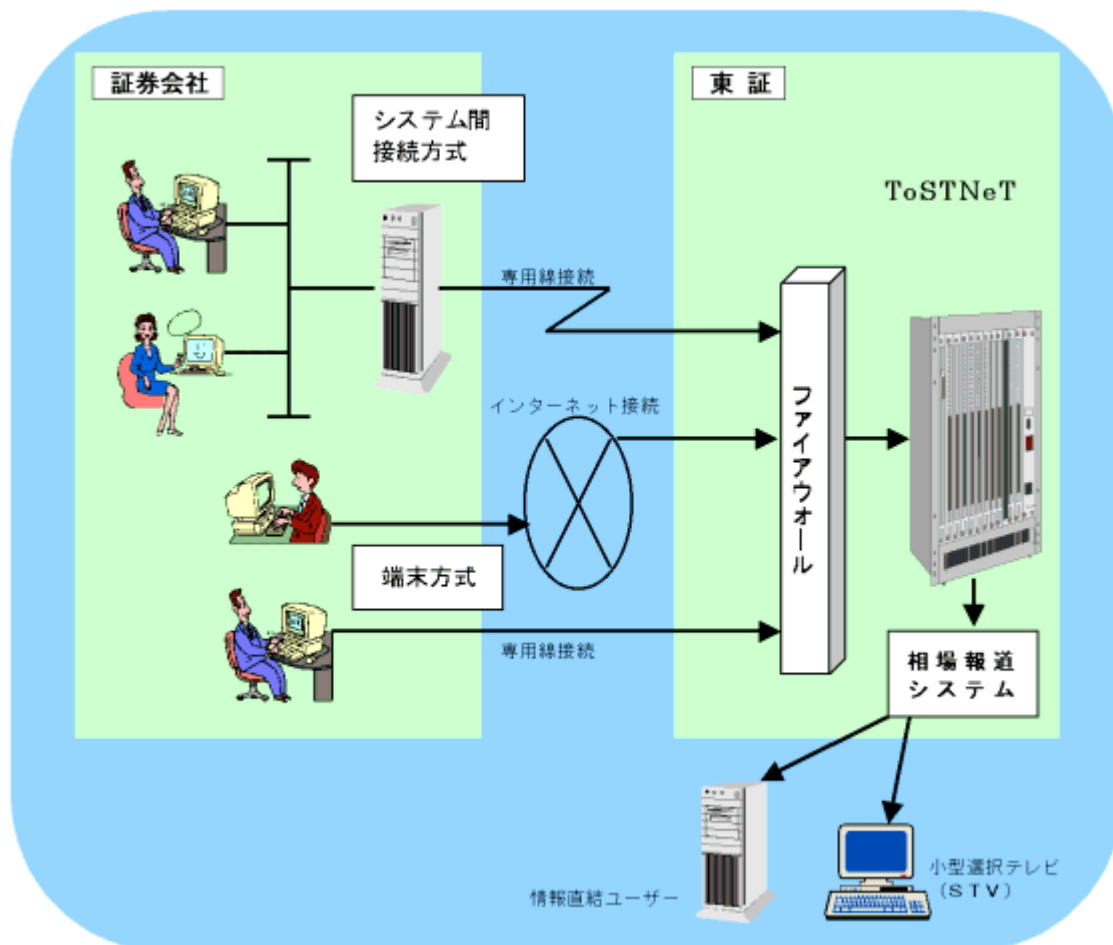
ToSTNeT-1	<p>ToSTNeT-1 は、機関投資家等の多様な取引ニーズに対応するもので、単一の銘柄の注文についてネットワーク上で匿名で取引の相手方を探し出し、個別に条件交渉を行い、取引を成立させることができます。</p> <p>もちろん、バスケット・クロス取引など同一証券会社におけるクロス取引も行うことができます。</p> <p>取引価格は、オークション市場の価格を基準として一定範囲内となります。</p>
ToSTNeT-2	<p>ToSTNeT-2 は、終値または売買高加重平均価格(VWAP)で取引を行いたいというニーズに対応したものであり、注文数量に拘らず利用できますので、特に個人投資家向けの制度となっています。</p> <p>1 日 3 回、立会時間外に売り買い注文を集約して、取引を成立させるものです。その際、クロス注文は優先して執行されます。</p> <p>オークション市場で執行できなかった注文を、立会時間外であらためて執行することができます。</p>

単一銘柄・バスケット取引及び終値取引の制度概要

項目	単一銘柄・バスケット取引 (ToSTNeT-1)	終値取引(ToSTNeT-2)
取引対象	<ul style="list-style-type: none"> ● 単一銘柄取引(上場内国株及び上場内国転換社債) 売買立会の最低売買単位以上 ● バスケット取引(上場内国株 同一有価証券で、15 銘柄以上、売買代金 1 億円以上のバスケット取引) 	上場内国株と上場内国転換社債 … 売買立会の最低売買単位以上
取引時間	午前 8 時 20 分～午前 9 時 午前 11 時～午後 0 時 30 分 午後 3 時～午後 4 時 30 分 (半休日は、午前 8 時 20 分～午前 9 時、 午前 11 時～午後 0 時 30 分)	午前 8 時 45 分 午後 0 時 15 分 午後 4 時 注文受付時間：午前 8 時 20 分～午後 4 時 (半休日は、午前 8 時 45 分、午後 0 時 15 分、注文受付時間は午前 8 時 20 分～午後 0 時 15 分)
取引価格	<ul style="list-style-type: none"> ● 単一銘柄取引 ● 普通取引の直前の約定値段(特別気配を含む、以下同じ)を基準として上下 7% の範囲内の価格 ● 午前 8 時 20 分～午前 9 時… 前日終日 VWAP に手数料相当額を加減して得た値段 午前 11 時～午後 0 時 30 分… 前場 VWAP に手数料相当額を加減して得た値段 午後 3 時～午後 4 時 30 分… 後場及び終日 VWAP に手数料相当額を加減して得た値段 ● バスケット取引 	<p>午前 8 時 45 分 … 前日終値 (特別気配を含む、以下同じ) 前日終日 VWAP</p> <p>午後 0 時 15 分 … 前場終値 前場 VWAP</p> <p>午後 4 時 … 当日終値 後場及び終日 VWAP</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ● バasket構成銘柄の普通取引の直前の約定値段を基に算出する基準代金の上下5%の範囲内の金額 	
取引方法	売買システム(ToSTNet)による取引	
呼値	<p>呼値の単位については、株券は1円の1万分の1の整数倍、転換社債型新株予約権付社債券は額面100円につき1銭の100分の1の整数倍。</p> <p>数量、値段(代金)、決済日を変更することが可能な旨の条件を付して、交渉を行うことが可能。</p> <p>Basket取引はクロス注文に限定。</p>	<p>呼値の順位は時間優先の原則に基づく。ただし、クロス注文は他の呼値に優先する。</p> <p>VWAP取引は、クロス注文に限定。</p>
売買契約の締結方法	<p>売呼値又は買呼値のいずれか一方の呼値と対当させるために行われた呼値が合致し、かつ、双方が承諾したときに取引を成立。ただし、クロス注文の場合は、当該呼値の間で取引が成立。</p>	<p>呼値の順位にしたがって、売呼値又は買呼値のいずれか少ない方の全部の数量が執行されるまで対当する呼値の間で取引成立。ただし、クロス注文の場合は、当該呼値の間で取引が成立。</p>
売買内容の通知	売買成立後、東証より直ちにその内容を通知	
決済方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 4日目決済(配当落又は権利落等として定める期日の取引は5日目決済) ● 当日決済(クロス取引のみ) 	4日目決済(配当落又は権利落等として定める期日の売買は5日目決済)
売買停止	売買立会による売買で売買停止が行われた場合や重要事実の周知が必要な場合等に売買停止を行う場合あり	
過誤訂正等のための売買	顧客の注文を真にやむを得ない事由による過誤等により、委託の本旨にしたがって執行することができなかった場合、あらかじめ東証の承認を受け、自己が相手方となって取引を成立することが可能	
売買内容の公表	相場報道システム等を通じて、個別銘柄の取引内容、総売買高、総売買代金等を公表	
信用取引 貸借取引	信用取引及び貸借取引により行うことが可能	
委託手数料	顧客との相対交渉	

システム概念図



システム間接続方式(証券会社と東証のホスト・コンピュータ同士を専用回線で接続)と端末方式(専用回線又はインターネットに自社端末(汎用PC)を接続)の2種類を利用することができます。ただし、ToSTNeT-1 のバスケット売買については、システム間接続方式のみのご利用となります。システム間接続方式の場合、ユーザー・ニーズに合わせて自由に画面設計等を行うことができます。端末方式の場合、見慣れた Windows 画面で、アイコン、クリック主体で取引を行うことができます。セキュリティ対策として、システム・アクセスにおけるユーザーID 及びパスワード、暗号化(SSL)、バックアップ回線(希望者のみ)を提供いたします。
※ 原則として、今後リプレースを予定している本所各システム(株式売買システム、先物売買システム等)と共通の電文フォーマットを採用しています。

ToSTNeT-2 の利用方法

終値等を確認して取引に参加

通常の株式投資のように、立会時間中の相場変動の中で投資判断を行い、取引に参加するのは異なり、終値または VWAP を確認してから、銘柄、売り・買い、数量をじっくり考えて取引に参加することができますので、株式投資入門者にも向いた制度と思われれます。もちろん、相場感に基づいた取引、すなわち相場上昇を見込んで直前の終値で買付けを行うといったニーズにも合致します。

立会時間中に執行できなかった場合に終値等で再チャレンジ

立会時間中に執行できなかった場合、例えばストップ配分で配分を受けることができなかった場合、気配引けで取引が成立しなかった場合、またバスケット取引や VWAP ベースの取引において指数等と比較して意図した株数を取得できなかった場合等、立会時間外にあらためて終値等で取引を行うチャンスが生まれることとなります。

バスケット取引の基準に満たない取引に対応

また、ポートフォリオのリバランス等において、バスケット取引の基準に満たない少数銘柄のバスケット注文について、終値等で取引を行うことができます。